

授業改善書

科目名	発達心理学
担当者	赤津純子

授業の概要

発達心理学の基礎的理論を踏まえたうえで、胎児期から老年期に至る心身の発達及び学習の過程を理解する。さらにそれを促す指導についての基礎的な考え方の理解を深める。概ね、運動、認知、言語、情緒、社会性の側面を中心に講義するが、その中では、できるだけ新しい観点と話題を取り入れながら発達を規定する内的・外的諸要因を明らかにすることを試みる。発達・保育実践・学習支援等に関する身近な話題の中からアプローチしていくことにより、成長していく実際の子どもの自分なりの視点を持って指導できる基礎的な力をつけることを目指す。

授業の問題点

授業についての評価に関しては、「授業への学習態度」「授業内容」、「授業方法」の3項目とも概ね良好であった。

このうち「授業への学習態度」については、「2 授業外学習」：自分で資料を収集し分析する課題を課したことで、多くの受講生が自主的に課題に取り組み、成果が得られる経験ができたようだった。「4 ノート取り」：授業の中で板書だけでなく、自分でノートをまとめるよう指導していたことから、しっかりとノートを取る習慣ができたようであった。「3 質問・発言」：前述の2項目と比較すると、やや低い評価であった。

学生の授業満足度

授業全体の満足度に関しては、「1 授業内容が自身にとって得るところがあった」、「2 授業に満足できた」の両項目とも評価は概ね良好であった。各テーマについて身近な話題から考えさせるようにしたので、多くの受講生が興味を持って臨んでいたようだった。

授業改善の課題と方策

受講生たちは、授業が始まると、私語は無くなり、真摯に聴講していた。一方で任意に発表する場面では、自主的、積極的に前に出て発表する者が多々見られ、活気のある討論がなされた。クラスの多くの者が授業の内容と意図を理解し授業の内容に興味を持ったようだった。「3 質問、発言」については、内気な学生たちも発言しやすいように少人数のグループワークなどの機会をさらに増やすとよかったと思う。

その他